

一般社団法人 神奈川県作業療法士会 平成27年度 理事立候補者一覧

氏名	所属	ひとこと
名古屋和茂	横浜YMCA 学院専門学校	昨年度まで県士会の事務局次長をしている名古屋です。県士会にはOT2年目より関わり、広報部、事務局、代議員対策委員会と活動をし、今年度はOT20年目となりました。この近年は、一般社団法人化、WFOT、代議員制度導入等、県士会の歴史を振り返っても、経験のない業務を中心に取り組んできました。今年度は、新たな取り組みを検討しており、今までの経験や人脈等々を活かしながら、理事として取り組んでいきたいと思ひます。
中西 浩司	北里大学東病院	2007年から4期8年、当士会理事を務めさせていただきました。この間、学術部担当として学術誌創刊、研究助成事業創設に関わり、前年は副会長として、会の運営をまとめる立場で活動していました。そして今回、職能団体としての存在意義を内外へ示すこと、また公益法人格へのアップグレードに向けて、士会組織の改変を企画しました。今後の組織運営につきましても、継続して関わらせていただきたく、皆さまにお願ひ致します。
内山 博之	横浜リハビリ テーション 専門学校	この度、理事に立候補いたしました内山博之と申します。現在、私は、学会評議委員会の理事として、働かせていただいております。内容としては、神奈川県作業療法学会および神奈川県臨床作業療法大会における学会文書取扱規程の制定、学会記録集作成を行わせていただきました。第15回神奈川県作業療法学会への学会評議員としての支援、学会実行委員として運営側の経験も行なわせていただきました。この経験を生かし、次期大会、次期学会に向けて、県士会員の皆様の学術・技術の向上をめざし、全力でサポートさせていただきたく存じますので、よろしくお願ひします。
佐藤 良枝	曾我病院	私は老年期、認知症を専門分野として25年以上臨床に従事してきました。この間、常に心がけてきたことは「基本を丁寧に」という実践です。その過程で新たな発見にも複数遭遇し、臨床への還元を心がけてきました。変化の激しい現在だからこそ、私の経験をもって県士会や県士会員の皆様のいいては県民の健康増進に寄与することができるのではないかと考え、理事立候補を決心しました。どうぞよろしくお願ひいたします。
吉本 雅一	湘南鎌倉総合 病院	昨年度まで理事を務めさせていただきました。会員の皆様のために学術、生涯教育だけでなく、様々な会員の方々への企画やサポート制度を築いていく事を継続して参りたいと思ひます。企画や活動を通して、会員同士の交流も図れればと思ひます。また公益社団法人化に向けて、組織のさらなる改革を行い、内外にも必要とされる組織運営を進めていきます。今後も神奈川県の作業療法、神奈川県作業療法士会の発展に寄与したいと思ひます。
福留 大輔	イムス横浜狩 場脳神経外科 病院	私は学術部担当として平成23年より2期の理事業務をさせて頂いております。その期間において、士会員間の学術的知識・技能の共有を促進し、「ともに学び、助け合う」を援助することを目的に、研修会事業、学術誌発行、研究助成事業の企画・運営をしてきました。今回、これまでの学術的な事業強化はもちろん、これからの社会に必要とされる作業療法士の育成や開拓、拡充ができる組織強化を推進するため立候補を致しました。
魚岸 実弦	横浜舞岡病院	横浜舞岡病院の魚岸と申します。臨床では主に精神に病を持つ方々とかかわらせていただいております。また、作業療法士や他職種、市民の方々と共に学ぶ会や若手作業療法士と一緒に学ぶ会を運営し、ひとがよく暮らせるためのリハビリテーションを考え続けています。作業療法の普及や発展に微力ながら貢献したく、今回理事に立候補しました。若輩者ではありますが、ぜひ一緒によい暮らしのための作業療法をつくっていきましょう。
神保 武則	北里大学病院	この度、理事に立候補いたします神保武則です。大成功に終わった昨年のWFOT横浜大会。その背景で活躍した神奈川県士会員の一人ひとりの雄姿が、私の中で未だ忘れぬ記憶となっております。神奈川県のOTは素晴らしい人材の宝庫です。この素晴らしい神奈川県士会の更なる躍進を支えられるよう、私なりに様々な活動を通じ培ったネットワークやアイデア、そしてフットワーク等を活かし、役立てて頂けたら幸いです。宜しくお願ひ致します。
錠内 広之	日本鋼管病院	これまで神奈川県作業療法士会の理事として事務局長4年、副会長8年務めてまいりました。その間、会費値上げ、事務所の設置、法人化、代議員制度の導入、会費の銀行引落しなど多くの重要な課題に携わってきました。職能団体の役割を時代に即して発揮できるように、この経験を引き続き県士会に生かしてまいりたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。
作田 浩行	昭和大学 保健医療学部	2005年から5期、理事として県士会運営とともに県士会サイトの作成を行ってきました。この間、業者に依頼することなくすべて手作りで県士会サイトを発展させてきました。特に近年は他部署との連携強化を図り、有益な情報発信に努めています。県民の健康増進に少しでも寄与できたとすれは嬉しく思ひます。今後は”連携”をキーワードに県士会サイトにて素早い情報発信を行うべく理事へ立候補しました。よろしくお願ひ申し上げます。

一般社団法人 神奈川県作業療法士会 平成 27 年度 理事立候補者一覧

木村 修介	新緑訪問護 ステーション	3期6年、主に地域リハ部の担当理事を務めてまいりました。1) 県内の障害者団体との情報交換を通じて ALS 者のコミュニケーション支援講習会を開催2) 訪問に特化した研修会の開催3) PT、ST 士会と連携し、地域リハビリテーション三団体協議会の設置4) 神奈川県 PSW 協会との合同研修会の開催5) 認知症に携わる OTR へのインタビューに取り組んでまいりました。この度は生活行為向上マネジメントの普及のために立候補を決意しました。
澤口 勇	藤沢病院	私は 2007 年に理事を拝命し事務局長を 8 年務めて参りました。その間県士会も法人化へと進みますが、地域では障害者自立支援法から総合福祉法へ、オレンジプランから新オレンジプランへ、地域包括ケアシステム等、作業療法士に対する期待と責任が高まっています。今後はさらに行政や市民と一体となって作業療法士が地域貢献できるよう、また精神科での 22 年の経験も生かし理事に立候補させて頂きました。どうぞよろしくお願い致します。
鈴木 久義	昭和大学 保健医療学部	昭和大学の鈴木久義です。1997 年に神奈川県作業療法士会に入会、現在に至っております。私は、法人化対策検討委員会を経て規約委員会を担当いたしております。本会は今後、公益社団法人となるべく準備を開始せねばなりません。定款や諸規則・諸規程の制定や管理が今まで以上に重要となります。理事に当選した暁には、他の部・委員会と連携を取りながら、これらの業務をしっかりと遂行して参ります。よろしくお願ひ申し上げます。
遠藤 陵晃	クローバー ホスピタル	このたび理事に立候補致しました遠藤陵晃です。県士会での実績は、地域リハ部員として訪問リハ関連の研修会企画運営を中心に、地域リハビリテーション三団体協議会の設置に尽力しました。現在、第 2 回臨床作業療法大会長を担い活動中です。地域包括ケアシステム構築における作業療法士の役割は非常に重要となっております。県内での作業療法士の位置づけを明確にするために行政、関係機関と連携し作業療法士をアピールいたします。
野々垣 睦美	クラブハウス すてっぷなな	理事に立候補しました野々垣睦美です。これまでも神奈川県作業療法士会財務部担当理事として活動させて頂きました。会員のみなさまの活動を支えるとともに、県民のみなさまへ作業療法(士)を「知ってもらい、活用していただくこと」ができればと考えております。作業療法士の活躍できる場は幅広く、さまざまな職種、立場の人と一緒に活動できるように基盤作りをしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。
鴻井 建三	横浜市立大学 附属市民総合 医療センター	県内の養成校卒業後、大学病院、一般総合病院などで勤務し 20 年を過ぎました。県士会には、学術部員、身体障害分野の講師、第 1 回臨床研究大会の大会長などで関わらせていただきました。作業療法士が専門職としての評価をより盤石なものとするためには、個人の成長や行政や病院施設の理解が必要と考えます。それを支える役割を県士会が大きく担っています。県士会が会員にとって、役立つ活動をするよう尽力したいと思います。
奥原 孝幸	神奈川県立 保健福祉大学	このたび神奈川県作業療法士会理事に立候補致しました奥原孝幸です。2007 年度より 4 期教育部担当の理事として、日本作業療法士協会の生涯教育制度の変遷とともに県士会での関連事業を継続して担当させて頂きました。作業療法士の職能団体として重要な本制度ですが、十分な推進状況ではございません。微力ながらではありますが、引き続き推進の役目を担いたいと強く思っています。ご推挙のほどよろしくお願い申し上げます。
野本 義則	茅ヶ崎リハビ リテーション 専門学校	この度、神奈川県作業療法士会理事に立候補した野本義則です。神奈川県内の精神科病院で臨床に携わり、現在は県内の作業療法士養成校にて教務主任をしております。県士会の業務では、副事務局長を 4 年、広報部担当理事として 2 年、また埼玉県にてウェブサイト管理担当理事を勤めました。既存のものに対しクリティカルに、かつユニークに考えることでより良いものを築いていこうと考えております。どうぞよろしくお願い致します。
村越 妙美	川崎医療生活 協同組合介護 福祉事業部	4 月になり、新しく作業療法士を迎え入れ忙しくも、新たな気持ちになっています。また、反面、介護保険の法改定にて企業がサービスの撤退をするなどの厳しい情勢を耳にします。2025 年の高齢者人口ピークに向けて、認知症 800 万人時代に向けて、私たち作業療法士が、何が出来るのか、未来を担う県民、県士会員の皆さまとともに考えていきたいと思っています。今期、立候補させて頂きました。よろしくお願ひ致します。